

**問** 栗真町屋町等における浸水の解消について問う

令和6年の台風第10号で浸水被害が発生した栗真町屋町等における浸水解消のための今後の取り組みは。

答 町屋ポンプ場の旧館を活用することで浸水の軽減を図った

栗真町屋排水区では、平成30年度に策定した津市雨水総合管理計画に基づき、令和6年度までに町屋第1雨水幹線および第2雨水幹線の整備ならびに町屋ポンプ場のポンプの新設・増設を実施したが、令和6年の台風第10号では、下水道の計画降雨量を超える降雨により浸水被害が発生した。

その後、同ポンプ場の旧館には少し余裕があることが判明したため、令和7年度に雨水幹線と旧館をつなぐバイパス管を整備し、新館と旧館を連携させることで浸水の軽減を図った。また、面整備が不十分な部分が残っていることから、令和8年度は現地測量等を実施する。

その他の質疑・質問

- ズリの管理および処分は適正か
- 火災による民家破損の津市の100%補償はどこまで補償されたか
- 平成29年度時点における市営浄化槽の設置は合法か
- 都市計画道路の整備について

右：町屋ポンプ場（新館）
左：町屋ポンプ場（旧館）

**問** 津偕楽公園のS Lリニューアルについて詳細を問う

令和8年度から三カ年で津偕楽公園のD51形499号機のリニューアルが進められることになった。設置から五十数年間屋根なしで展示し、D51の中でも独特な形状を有する車体の劣化が進んでいることには、市民のみならず鉄道ファンも心を痛めてきた。今回の整備で屋根が付くとのことだが、なぜ今になって整備することになったのか、また三カ年の作業予定の詳細、整備後の活用計画は。

答 S Lを目当てに訪れたい環境を創出していく

令和元年度以降、津市で維持管理を検討する中、令和6年度に創設された国の第2世代交付金を活用し、歴史的価値を有する津偕楽公園を魅力ある憩いの空間とする一環として、屋根の設置を含めた抜本的なリニューアルを行う決断をした。令和8年度は車両を風雨から守るための屋根施設の実施設計、令和9年度は屋根施設の新設工事や新たな体験の目玉となる汽笛の仕様の決定、令和10年度はD51の塗装工事や汽笛の設置工事を実施し、往年の迫力ある雄姿を目と耳で体験できるようにすることにより、これまで以上にD51を目当てに訪れたいような環境を創出していきたい。

その他の質疑・質問

- 議案第64号および65号 工事請負契約について
- 文化ホールの舞台照明設備および舞台音響設備改修工事による更新後の機器の操作性について
- 津駅東西連絡歩道橋の再開の可能性について
- 見当山を再び活用する可能性はないのか
- 「津市の誇れるもの」のPR手法について、わがまちを自慢する市民が増えるような取り組みは

現役時代のD51形499号機（昭和48年、阿漕駅、瀧裕司撮影）

